

第9回 県隊友会ゴルフコンペ開催 参加者募集

- 開催日 平成27年5月21日(木) 9時スタート
- 場所 丸の内倶楽部 〒297-0204 千葉県長生郡長柄町力丸35-4 電話 0475-335-3111
- 経費 プレフィー 8千950円(昼食ワンドリ込み) 参加費 3千円(極力支部でとりまて)
- 競技について
 - ◎参加者全員による18ホール・ダブル・ペア方式。
 - ◎団体戦と個人戦の併用競技
 - ◎団体戦 各支部または一部混成チーム対抗戦 各支部等3、5名以内の参加者で1個チーム構成 上位3名のネットスコアの合計で順位付け、但し大会当日、参加者が3名に満たなかった場合は連合チーム所属とする。
 - ◎個人戦 全員のネットスコアによる。ダブル・ペア方式によるハンディは団体・個人とも1ホール、ダブルスコアでカット、順位はハンディ小、年齢大順、最後はじゃんけん
 - ◎その他
 - ◎受付 当日7時30分開始
 - ◎参加費は当日のキャンセルの場合も徴収
 - ◎参加申し込み要領
 - ◎支店長・氏名・年齢・連絡先(電話・携帯・メール)いずれもを4月21日(火)までに担当の柏倉健蔵理事まで

【幹事担当 木津津支店】

隊友千葉だより

【事務所 開所時間】
月・水曜日 1300～1700
金曜日 1000～1500

平成27年1月号 千葉県隊友会事務局



〒260-0042 千葉県千葉市中央区森森1丁目26-9コンラッドビル4階 電話 043-306-2095 FAX 043-306-2096
電子メール chibataiyuu@angel.ocn.ne.jp ホームページ http://www.chibataiyuu.com/



富田 稔会長 新年のご挨拶

新年 明けましておめでとうございます。
千葉県隊友会会員各位、在業自衛隊の皆様、防衛関係諸団体の皆様をはじめ日頃から千葉県隊友会の活動に御理解・御協力を頂いている皆様、御家族ともども輝かしい平成27年の新春を迎えられましたこと、謹んでお慶びを申し上げます。

今年、わが国の紀年法(初代天皇である神武天皇が即位したとされる年を元年(紀元)とする)では、皇紀2675年です。歴史に当たり、先ずもって、2千数百年の長い歴史を保ち、その間、万世一系の国柄が続いているわが国の本年も変わらぬ弥栄を祈念いたしたいと存じます。

また、遠く祖国を離れアフリカ・中近東地域等の苛酷な条件下での海賊対処やPKOに従事され、さらには尖閣列島などの緊迫したわが国周辺地域での様々な任務や国内の災害派遣等の任務に就き、そして訓練等に日夜寒暑と務めておられる陸海空自衛隊の皆様に対し心から敬意と感謝を申し上げます。

昨年は、千葉県隊友会にとりまして、「防衛意識の高揚」、「慰霊顕彰」、「自衛隊への協力支援」、「防災活動」、「地域活動への参加」などの例年の事業に加え関東甲信越静岡ブロックの「防衛セミナー」や「ブロック研修会」を担当するなど、多忙な年となりましたが、各支部長・支部役員方々はじめ会員各位の積極的な活動、ならびに協力各団体皆様として千葉県地方本部をはじめ陸海空自衛隊の皆様御協力・御支援のお陰をもちまして、充実した有意義な一年を過ごし、無事に年を越すことができました。

第57回全自衛隊ラケット大会

12月12日(金)、13時から秩父宮ラケット場で決勝戦が行われ、習志野駐屯地チーム(第1空挺団)は、船岡駐屯地(第10施設群)に敗れた。試合は大会会長である西 正典防衛事務次官をはじめ同野営後援委員長、岡部俊成駐屯地官舎長、岩村公史第1空挺団団長、西チーム応援団が見守る中で行われ、終始船岡が押し気味に試合を進め最終的に36対13で勝利。昨年は同点引き分け(トライ数の差で船岡優勝)で、習志野駐屯地としては、今年こそはと期待して観戦したが、残念な結果に終わった。船岡はこれで13連覇。この他県内からは海自船山基地が大村基地と同チームで参加、Cブロックで優勝。海自下総基地も厚木基地と同チームで参加。同時に女子7人制も行われた。女子は現在、自衛隊体育学校に要員を集め、強化中。オリンピックでの全日本チーム入りを目指している。



千葉地本年忘れ餅つき大会

12月7日(日)、千葉地OB会である「暴会」が主催、齋藤波祐基会副会長(前四街道支店長)の開催挨拶に続き長官、富田会長、協力団体会長等が幹を握った。その後、現職隊員・OBとともに掲ぎたての餅を味わいながら、大いに親睦を深めた。



在葉部隊長の交代

昨年12月15日付で教育航空集団司令部 坂田竜三海将は大湊地方総監に栄転、第21航空群司令部 日向 錦次郎海将補は勲奨退職。後任は、それぞれ海自幹部候補生学校長から池 太郎海将及び海自情報業務群司令部から鎌形 義憲海将補が首任された。(詳しくは「次号」で紹介)

改めて感謝申し上げます。さて、今年は、昨年末の慌ただしい中で総選挙を経て、新たな政治的枠組で新年を迎えることとなりました。

アベノミクスで上向いた経済情勢、消費増税による足踏みなどに一言一響してきましたが、今年は、新政権のもとでの経済再生、財政再建、少子化対策、社会保障制度の再構築、教育再生などの国内改革が一層加速される年となることを期待したいと思えます。

一方、現下の国際情勢は、イスラム国の台頭、各国の利害が絡み合い出口の見えないウクライナ情勢、そのほか後を絶たないアフリカ・中近東地域などでの様々な要因による紛争や衝突など、依然として不透明、不確実な様相を呈しています。更に、米国の国際的指導力の陰りあるいは中国、ロシアなどの国際影響力の増大等も更に進みかねず、ますます混沌として将来を見通すことが困難な状況といえます。

我が国周辺地域に目を転じますと、中国の軍力強化とそれを背景とした海洋進出、金正恩独裁体制固めに狂奔する北朝鮮の核・ミサイル開発などの軍事動向、ロシアの北方領土開発の加速や極東地域の軍力再強化などには、依然として予断を許さないものがあります。そうした中で、日中韓の話し合いの機運や北朝鮮の拉致被害者再調査の動きなどはあるものの、中国の習近平主席及び韓国朴槿惠大統領の反日姿勢、北朝鮮の閉鎖的で身勝手な金融独裁体質など大きな変化は期待できず、わが国を取り巻く情勢は、依然として混沌としています。

このような情勢の下で、国民の信を得て再出

事務局からの連絡事項

- ◆26年度後期理事役会及支店支部長等会議 3月6日(金) 13時半から千葉市民会館4階会議室で実施。理事役役・監事役及び支店長等は参加を。
- ◆26年度千葉県自衛隊入隊予定者激励会 3月7日(土) 13時から四街道文化センターにて開催。今春以降、自衛隊に入隊・入隊する若者を激励。第1部激励会、第2部音楽会。多くの方の参加を。
- ◆27年度 県隊友会 通常総会・表彰式・懇親会 4月22日(水) 午後 三井カーテンホテル千葉(千葉市中央区)で開催予定。平成27年度分年会費納入。
- ◆会連営協力費のお問い合わせ 財務基盤改善のため、入会10年経過、75歳未満(今年は昭和15年4月2日以降生まれ)の終身会員の皆様に会連営協力費(寄付) 3千円をお願いしています。会費・寄付いずれも該当者に依頼状送付。県事務所との連絡がつきにくく、ご迷惑をおかけしています。

強した政府には、わが国の将来を司るべき戦略的思考に基づき地球規模での平和外交、現下の国際情勢を踏まえたより現実的な安全保障・防衛政策の推進により、将来にわたるわが国の安全に対する揺るぎない信頼を確立しつづけていくものです。更には、70年近く前に占領軍の強い影響下に作られた独立国としての安全保障が欠落した現行憲法を改め、長い歴史を持つわが国の国柄を踏まえた独立国に相応しい憲法制定の道を開いてもらえぬものと期待しています。

今年も、千葉県隊友会として、国内外情勢を踏まえた講演会活動等による防衛意識の普及と高揚、県内各地域での防災訓練や慰霊顕彰事業への積極的な参加・協力など、国民と自衛隊とのかけ橋として、地域社会の健全な発展に貢献しつつ、会勢の充実、県本部及び支部役員等の若返りを図り、更なる会の活性化を図ってきたいと思えます。

会員皆様には、昭和34年(1959年)の誓いの志を受け継ぎ、在業自衛隊との相互理解を深め、県本部企画事業に積極的に参加するよう、それぞれ支部の状況・特性に応じ地域に密着した独自の活動を行っていただきますこと、大変心強く感じている次第です。今年も、会員皆様とともに隊友会活動のより一層の充実と務めてまいりたいと考えています。それぞれの立場で御意志を注ぎ、より有意義な活動を展開していただきますようお願いいたします。

会員各位、御家族、関係の皆様は今年一年の御健勝、御活躍を祈念いたしますとともに、千葉県隊友会に対する変わらぬご理解、ご協力を切にお願ひし、新年の挨拶といたします。

26年度部隊研修終了

需品のメッパ松戸駐屯地を研修

昨年11月19日(金)、晴天の中、会長以下65名が参加、関東補給松戸支隊、需品及び高射高射科群の現職、装備を研修し、陸自需品科現職及び最新鋭の陸自防空装備に関する認識を深めた。研修場所は10時半に駐屯地に集合、当初、高射学校長兼松戸駐屯地司令 今金 元陸将補から歓迎の挨拶を頂いた。引続き、需品科現職 柏木至平1階任による駐屯地 需品学校、松戸支隊及び高射科群に関する講話を受け、野草園見学、体験活動を行った。午後から3個グループに分かれ、支隊の補給品倉庫、落下傘整備工場及び被服整備工場を見学、引続き需品科現職の野外科給水装置の展示・説明、初級陸曹給養課程の野外科教育現場及び補給管理課程の現状について説明を受けた。2高射では3式中距離地对空誘導弾(中SAM)の展示・説明を受け、15時に全日程を終了した。「部隊の在りどころ(需品あり)」・「真情あふれる支援」を合言葉に平有事を問わず衣食住・被服科隊員、部隊・隊員の生存・機動を支える需品科隊員の真摯な姿に接するともに有事、自衛隊防空の任にあたる者へ高射科群の使命を認識でき、大変有意義な研修となった。本研修を受け入れて頂いた今金 元南校長兼松戸駐屯地司令、和田信之隊司令支隊長及び古賀高射高射科長以下駐屯地の隊員及び研修を計画・実施した金子幸雄松戸駐屯地担当理事にこの場を借りて御礼申し上げる。



今金 元(はじめ)司令敬迎挨拶

初級陸曹給養課程訓練場見学

落下傘整備工場 被服課程はお手の物

補給品倉庫 非常用糧食の説明

中SAM(2高射)見学

浄水機材の説明

落下傘整備工場 自由落下傘の装備

特別会員等講演会終了

12月5日(金)、16時からランドビル市ヶ谷において隊友会本部が主催、東京・神奈川・千葉・埼玉の特別会員及び正会員計100名が出席、千葉原から白井日出男防衛局長、中村実船橋市長、中台祐三氏、原雄一氏、山下良英氏及び古賀高射科長が参加し、また、宮本善介沼市市長から祝電を頂いた。懇談会からは今金元以上12名が参加、講演会では、西元敬出隊友会会長自ら講師を務め、安徳理の私的訪問機関「安徳隊」の一角として報告書を作成し経緯を踏まえ、7月1日の開議決定について詳しく説明、今後より厳しい任務に隊員を送り出す国の覚悟と隊員への支援と強調された。引続き懇談会では、本隊特別会員の宇都隆史参議院議員、陸軍人事部長高田克隆陸将補他の現職自衛官も加わり、和氣あい輝やかに懇談した。この場を借りて本講演会に参加頂いた特別会員の皆様へ感謝申し上げます。



第16回高射学校音楽祭

12月7日(日)、四国道文化センターで午前午後2回にわたって開催。高射祭は自衛隊らしく、まず会場全員が起立しての国歌演奏に始まり、当初、山内一等陸士によるラッパ演奏、「下志津 怒涛黒潮太鼓」、「習志野空神土魂太鼓」及び「木更津天原相模太鼓」の3コソチームである「房州の人太鼓」による太鼓演奏、引続き、高射学校音楽隊、第12音楽隊、富士学校音楽隊、施設学校音楽隊の連合チームにより、囀らぬない「ソングキスプレス」も含めた曲が演奏され、会場を盛り上げた。この他に、年々始めにかけ山内基地及び木更津基地(海・空)でも音楽祭が開催されている。



平成26年11月・12月入会者

祝入会【敬称略・順不同】

- 入会深謝・隊友会の発展にご協力
- 【船舶】 長内 力(陸) 井上 聖(陸)
 - 【木更津】 大竹 明(陸) 中村 由幸(陸)
 - 【我孫子】 田中 圭二(空)
 - 【千葉緑】 西明 格(海)
 - 【鎌ヶ谷】 阿比留 義順(海)
 - 【館山】 日向 龍次郎(海)
 - 【松戸】 山内 昭治(陸)

26年度版防衛白書 説明会

千葉防衛団体連絡協議会(略称「千防協」、千葉県自衛隊協力会連合会、千葉県自衛隊友会、千葉県自衛隊援護協力会、千葉防衛協会)からなり、在県自衛隊支援について情報交換・調整を実施は、前田上野千葉地本長に「平成26年度版防衛白書」の説明をお願いしていた。12月12日(金)10時から地本会議室において実現した。平成26年度版は昭和45年の初刊以来40回目となり、巻頭に平成26年に自衛隊創設60周年を迎える防衛省・自衛隊の歩みとともに白書刊行の歴史を振り返る特集記事を載せるなど、「これまでの3部構成(「わが国を取り巻く安全環境」「わが国の防衛政策」「わが国と世界の関係)」から第4部「防衛力の能力発揮のための基盤」を新たに設けるのが特徴。地本長は、県内全ての自治体を訪問し、白書説明を行っている。

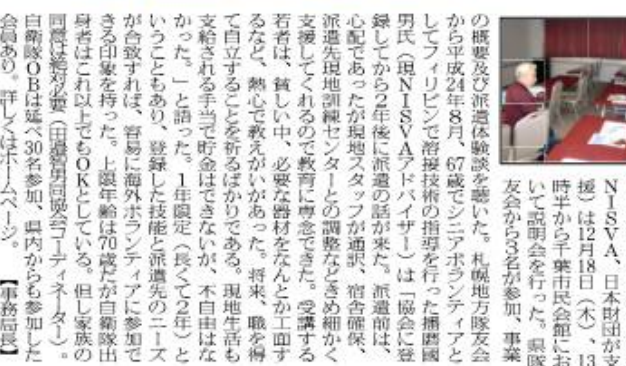


日米共同指揮所演習を研修

12月2日(火)から16日(月)の間、陸自演習車地において東部方面隊4、500名と米陸軍第1車両連隊2、000名が参加して平成26年度日米共同演習「演習名が公衆技能(音字)」が行われた。在日米陸軍のシンボル「第11VAMA」と陸自自衛隊のシンボル「第11SAKURA」の頭文字をとり、「YSR」という名称で視視された本演習も昭和57年2月、東部方面隊が担任して第1回が開催されて以来、今回で67回目となった(毎年2回実施。奇数回は日本、偶数回は米国)実施。東西冷戦、ソ連崩壊、イラク戦争、9・11同時多発テロと世界情勢が大きく変化する中、各時代のニーズを取り入れ、進捗と続いていく本演習は、日米同盟の絆を維持・強化する上で大きな意義がある。多くの隊員先達諸兄が本演習に携わって来られ、懐かし方も多々おられることと思う。今回、東部方面隊及び千葉地本の計らって、久々に本演習を研修する機会を得た。演習は東部方面隊の地域に侵及した敵を日米共同して撃破、国土を回復するという伝統的な想定に国民



保護のための自治体参加、前報整備、日米共同での離島奪回など時代を反映した要素も加わった。また広域戦域強化の観点からケネディ駐日米団大使も本演習を視察。さらに演習に参加した通訳120名の内40名が公募技能(音字)予備自衛官から任用された予備自衛官であることも佳話と大きく変わったところ。演習のために設けられたグラウンド一杯の天幕・テラハフ群を前に女性自衛官一等隊医の流暢な説明を聞きながら、このような大規模指揮所演習を前から後方支援・広報まで一点の抜かりもなく整音と実行する自衛隊の組織力に演習自衛官の身も改めて感心した。【事務局員】



※予備自衛官補、一般社会人や学生など自衛官の経験がなくも所定の教育訓練により、予備自衛官になれる制度。一般と技能の2種類。一般公募は採用年齢15歳以上34歳未満に達した者なら誰でも応募可能。技能公募は語学や医療技術、整備などの専門分野に精通した18歳以上で国家資格等を有する者。資格により53歳未満から55歳未満。予備自衛官補は所定の募集教育訓練を経て予備自衛官に任用される。募集は1月から4月に実施。

海外ボランティア説明会
一般財団法人技能ボランティア海外派遣協会(略称 NISVA、日本財団が支援)は12月18日(木)、13時半から千葉市民会館において説明会を行った。懇談会から3名が参加、事業の概要及び派遣体験談を聞いた。札幌地方隊友会から平成24年8月、67歳でシニアボランティアとしてフィリピンで溶接技術の指導を行った播磨國男氏(現 NISVAアドバイザー)は「協会は登録して2年後に派遣の話が来た。派遣前は心配であったが現地スタッフが通訳、宿泊確保、派遣先地訓練センターとの調整などをきめ細かく支援してくれて、必要な器材をなんとか工面するなど、熱心で教えがいがたい。将来、職を得て自立することを祈るばかりである。現地生活も支給される手当で貯金はできないが、不自由はないこと」と語った。1年技能(長くこの任にいたこと)もあり、登録した技能と派遣先のニーズが合致すれば、容易に海外ボランティアに参加できる印象を持った。上級年齢は70歳だが自衛隊出身者はこれ以上もOKとしている。但し家族の同意書が必要(田舎暮らし自衛官「ユニオン」)。自衛隊OBは延べ30名参加、県内からも参加した会員あり。詳しはホームページ。【事務局員】